

個人質問

教育問題、不登校・少年犯罪への取り組みと財政について

誠和会

小高 良則



教育問題について

問 教育問題として、不登校への対策について伺う。

教育長

予防的な対策や早期解決のため、本市では、長欠担当者に対しての聴き取りと指導助言、長欠担当者会議の開催、生徒指導専任指導主事の派遣、研修会の開催、「魅力ある学校づくり」の指定、千葉県子どもと親のサポートセンターとの連携等により、解決に取り組んでいるところです。

対策といたしましては、「校内適応指導教室」や八街市教育支援センター「ナチュラル」を設置しております。また、市のカウンセラーによる教育相談を実施し、児童・生徒や、その保護者の不安を取り除く努力をしております。さらに、学校教育相談員が関係する児童・生徒の自宅を訪問し、学校と家庭を結ぶ重要な役割を果たしております。

今後不登校児童・生徒の解消を目指して、さまざまな観点から取り組んでまいります。

問

教育問題として、少年犯罪への取り組みについて伺う。

教育長

早期発見・早期対応のため、佐倉警察署、八街幹部交番、保護司会代表、青少年相談員との「小中高生徒指導連絡協議会」を年3回開催し、情報交換を行うとともに、解決に向けた具体的な対策を検討しております。

また、市の職員と市内教育員による青色回転灯付きのパトロール車での市内巡回も実施し、校外での児童・生徒の防犯意識の昂揚と交通安全への啓発に努めております。

財政について

問

小規模工事の実績と評価について伺う。

市長

小規模事業者による仕事の状況については、緊急時等に対しても迅速に対応しており、丁寧で敏速な仕事であると考えております。

問

入札の状況について伺う。

市長

公共事業の効率的執行を通じて、コスト縮減を図る観点から、適切な発注ロットの設定が要請されているところであります。従来から市内業者の育成、雇用の確保等、地域活性化を図る上で、地元中小業者の受注機会に配慮しているところです。今後も、地元中小事業者の受注機会の確保に努めていきたいと考えております。

※その他の質問

教育センターについて

民生、生活保護の状況と生活状況について

交通安全対策について

個人質問

障がい者福祉、高齢者福祉、少子化対策について問う！

誠和会

山口 孝弘



障害者福祉

問

厳しい雇用の現状が続いており、障がいを持つている方にとって職場の確保は困難な現状となっている。そこで、市単独で障害者雇用促進事業等（企業や障がいがある方への助成事業）を行う考えはないのか伺う。

市長

雇用率達成企業に対しての報酬金や各種助成金を支給している障害者雇用納付金制度等、国の支援による企業への助成のほか、障害者自立支援対策臨時特例基金事業による一般就労移行促進事業などがあり、雇用促進に活用されていますが、それらに加えて、市単独で企業や障がい者へ雇用促進のため、助成事業を創設することは考えておりません。

高齢者福祉

問

稲城市では、平成19年度から65歳以上の高齢者の方々が、

介護支援ボランティア

「介護支援ボランティア」を初めて制度化した街である。この制度は、現在全国で約20市町村で実施されており、注目されている制度である。

市長

平成22年7月1日より千葉県内では初めて印西市においてこの制度の運用を開始したところですので、先進事例の実績と効果等を参考とし、他の近隣自治体の取り組み状況などの情報も収集しながら、調査・研究を進めてまいります。

介護支援ボランティア

高齢の方がボランティアとして介護支援を行った場合にポイントを付与し、これに対して交付金を交付する制度。

少子化対策

問

八街市と全国の出生率について伺う。合計特殊出生率は、

市民部長

出生率は、

平成20年度は、全国が1・37、県が1・29、本市が1・23といった状況です。

問

八街市次世代育成支援行動計画によって、子育てに関する環境はよくなっていますが、この少子化問題について、クリアできるのか伺う。

市民部長

少子化問題については、子育てしやすい環境を整えるとともに、人口の定着や出生率の向上など、様々な問題を解決しなければ難しいですが、次世代育成支援行動計画に記載した様々な事業に計画的に取り組む、少子化対策につなげてまいります。

次世代育成支援行動計画

地域における子育て支援などの子育てに関する各施策を、市民と行政が連携しながら推進するものです。

※その他の項目

公共交通網の問題

防災問題

プール開放事業